高等部道徳科学習指導案 『お母さんへの手紙』

**１　主題名**　家族のことを考える　C-(14）　家族愛　家庭生活の充実

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・家族のことを考える

・自分の視点だけでなく、家族それぞれの立場になって、家族の事を考えることができる。

・お世話になっている人や家族を敬愛する気持ちをより一層深める。

（2）教材　　お母さんへの手紙　（P６８-７１）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| C　主として集団生活や社会との関わりに関すること　（１４）　家族愛　家庭生活の充実  父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「いつもお世話になっている人」の筆頭として考えられるのが、多くの場合、生活の中心となる家庭の中での父母、祖父母、兄弟姉妹など、家族である。

家族の中で、かけがえのない存在として自分が育てられていることに気付き、家族に対して敬愛の気持ちを深めていくことはとても大切である。しかし、**年齢**が上がり自我意識が強くなると、日常生活の中で、家族の忠告やしつけ、叱責に対して、自分の判断や意志を通し、家族の意向に反する態度や行動をしてしまいがちで、素直に応じたり感謝の気持ちを表したりできないことが多くなる。

家族関係を自分の視点だけでなく、家族それぞれの立場や気持ちになって考えることで、家族への感謝の気持ちや敬愛の念をもたせ、家庭での自分の役割や立場に気付ける機会としたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で伝えることができる生徒を対象とする。言葉による発表が苦手な生徒に対しては選択肢を用意し、文字を書くことが苦手な生徒に対してはタブレットによる文字入力や音声入力、代筆による支援などの配慮を行う。

学校生活においては日常的にコミュニケーションの大切さを伝え、挨拶や礼儀の指導と関連させながら、表情や身体表現、発語など様々な方法で相手に伝えることの重要性を指導する。また、協働的な学習においても、他の生徒との関わりを通し、相手の立場を考え尊重する態度について学ばせる。

家庭生活においては、役割を具体化することで家族の一員としての立場を自覚できるようにし、家族への尊敬と愛情の念をより深められるよう、各家庭と連携しながら日常的に指導していく。

（３）教材について【教材観】

学級の道徳授業において、日頃お世話になっている人に対して自分の気持ちを伝える手紙を書いた生徒が、友達からの言葉で、家族について考え心情を理解しようとする話を紹介した教材である。具体的な手紙の内容が1ページを使って示されている。

本文を読んで、主人公の隆宏さんと、隆宏さんを叱るお母さん、それぞれの気持ちを推測する学習を行ってから、隆宏さんの立場になってお母さんへの手紙を書き直す活動に取り組むことで、自分自身の家庭生活を振り返ることができる教材となっている。

指導に当たっては、多様な家族構成や家族状況があることを踏まえ、**一人ひとり**の生徒の実態に十分な配慮を行う必要があるため、隆宏さんの手紙の書き直しという形で体験活動を実施する。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　P68の拡大版（写真画面のミラーリングなど）、補助プリント（手紙用の便箋）

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | １　いつもお世話になっている人は誰か、それぞれに考え発表する。  ・どんなことでお世話になっていると思うのか、理由や内容を考える。 | ・家族  ・友達  ・先生　　など  ・ご飯を作ってくれる。  ・一緒に遊んでいる。  ・何度も助けてくれた。  ・心配してくれる | ・日常生活を振り返り、お世話になっている人を思い出す。  ・「いつも」と**いう**言葉から、身近に関わっている人を考えさせる。  ・どんな理由や内容か発表する。  ・対象は限定しないが家族の話題が多い場合はさりげなく指摘する。  ☆「お世話になっている」という感謝の気持ちを理解している。  （知・技） |
| 展  開 |  | 2　教材　「お母さんへの手紙」　を読み、話し合う。  ①本文P６９の最初の４行を読んでから、本文P６８の手紙を読む。  課題　お母さんへ手紙を書いた時の、隆宏さんの気持ちを考えよう。  〇隆宏さんは手紙の中で、お母さんに対してどんな気持ちを伝えていますか？  ・本文P６８の手紙を見ながら、隆宏さんがどんな気持ちを伝えようとしているかを確認する。  （手紙を拡大して提示しておく。）  課題　隆宏さんを叱る時の、お母さんの気持ちを考えよう。  ②本文P69の5行目以降の文章を読んだ後、質問に取り組む。  〇お母さんが隆宏さんを叱るのはなぜだろう？  ・発表後、本文P７０の①欄に自分の考えを記入する。  （番号に○をつけ、書ける生徒は自由意見も記入する。）  ３　黒板の右側に書いた「隆宏さんの気持ち」と左側に書いた「お母さんの気持ち」を比較する。  ４　話し合ったことや板書の内容を参考に、隆宏さんの立場になってお母さんへの手紙を書き直す。  ・P70②の問いを考える。  〇あなたが隆宏さんだったら、この手紙をどのように書き直しますか。  ・本文P70の①②や板書を参考にしてお母さんへの手紙を書き直す。  ・書いた内容を発表し合う。  ・読み上げによる発表  ・プリントの撮影による画面発表  ・教師の代読による発表 | ・感謝の気持ち。  ・ご飯のお礼。  ・謝罪の気持ち。  ・やめて欲しいこと。  ・怒っている。  ・心配している。  ・がっかりしている。  ・悲しんでいる。  ・良くなって欲しい。  ・大切に思っている。  課題　隆宏さんの立場になって、お母さんへの手紙を書き直してみよう。  ・自分の事を考えてくれてありがとう。  ・自分でできることは自分でします。  ※書き直しに時間がかかった場合は、無理に発表の時間を取らず、終末に進む。 | ・文章の内容を把握するため、読む順序を入れ替え、理解しやすくする。  ・P６８の手紙を読み終えたら、P６９に進まず、話し合いを行う。  ・隆宏さんの気持ちや状況を想像する。  ・隆宏さんの気持ちが段々と変化し、自立心や自我意識が表現されていることに気付かせる。  ・生徒の発言（隆宏さんの気持ち）を右側に板書しておく。  ・文章の途中から読むので、該当箇所がわかるように明示する。  ・発語がない生徒は番号を選択する形で発表する。  ・選択肢以外の気持ちを想像させ、発表を促す。  ・どの意見も尊重し、黒板の左側にお母さんの気持ちを板書する。  ☆自分の考えを発表し記入する。  （思・判・表）  ・拡大した手紙を活用し、具体的な気持ちや立場を考えさせる。  ・子供と親、それぞれの立場になって考えられるようにする。  ・補助プリント（手紙用の便箋）を配布する。  ・机間指導により個別に声をかけ、黒板の内容を示したり、P.70の①を確認させたりする。  ・手紙の元の文章を活用しながら、自分が隆宏さんになったつもりで考えさせる。  ☆隆宏さんの気持ちを自分事として考え、書こうとしている。（態度）  ・隆宏さんの気持ちを考えて書けたことを認め、褒める。  ・声を出しての発表は無理強いせず必要に応じて代読や投影を行う。 |
| 終  末 |  | ５　書き直した手紙をもらった時の隆宏さんのお母さんの気持ちを想像し、自分自身の家族への気持ちを深める。    ・本文P71「つなげよう」を読み、家族への愛情や感謝の気持ちを再確認する。  ○伝えることの大切さを話す。 | ・うれしい。  ・良かった。  ・ありがとう。 | ・手紙を渡した時のお母さんの反応を考えて発表する。  ・手紙を書き直したことで、親子がお互いに嬉しい気持ちになることが理解できるようにする。  ・家族の大切さや愛情に気付かせ、日常的に感謝の気持ちを伝えることを勧める。 |

（4）終末での教師の説話例

家族の存在は自分にとって当たり前で、「いつもお世話になっている」ことも意識せず忘れがちであるが、家族が自分にしてくれた行為に対して、感謝の気持ちを言葉や手紙で伝えることはとても大切である。家族はかけがえのない存在であり、家族の中で自分がどのような役割を果たせば良いかを考え、家族の一員として協力していくことが、充実した家庭生活につながっていく。